

駒澤大学

グローバル・メディア・スタディーズ・ラボラトリ

活動報告書

2022年6月

駒澤大学

グローバル・メディア・スタディーズ・ラボラトリ

## 目次

はじめに .....	1
オーバレイネットワークを用いた自律分散型デバイス連携研究 .....	2
ビジネスアーキテクチャの研究と実践 .....	8
社会とメディア研究プロジェクト .....	12

## はじめに

駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部（GMS 学部）は、外部との共同研究の受け皿、対外的研究成果発信、社会的貢献の3点を目的として、「グローバル・メディア・スタディーズ・ラボラトリ（以下「ラボ」）」を設置、2011年度より活動を開始した。ラボ研究員は、本学部教員、運営委員会によって決定される研究計画に参加を希望する本学教員、本学学生及び学外者から構成される。前回の活動報告書が発刊された2021年度以降、2022年3月までに実施終了または実施中のプロジェクトは次の3つである。

### 1. オーバレイネットワークを用いた自律分散型デバイス連携研究

研究期間：2011年1月1日～2022年3月31日

### 2. ビジネスアーキテクチャの研究と実践

研究期間：2016年8月1日～2026年3月31日

### 3. 社会とメディア研究会

研究期間：2018年4月1日～2022年3月31日

以下、各プロジェクトの活動内容について報告する。

# 1. オーバレイネットワークを用いた自律分散型デバイス連携研究

研究代表者：石川 憲洋（グローバル・メディア・スタディーズ学部 教授）

研究分担者：加藤 剛士（NTT ドコモ）

齋藤 信男（慶應義塾大学 名誉教授）

進捗状況

## 1 イベント駆動型アプリケーションを実現するセンサデバイスの開発

### 1.1 プロトタイプ実装状況

本研究で推進している、家電機器の分散自律制御フレームワーク[1]の実装評価に向け、Raspberry Pi 単体での自律分散制御を行うソフトウェア開発を進めている。図1にこれまでのプロトタイプシステム、図2に開発中のプロトタイプシステムを示す。図2に示す通り、これまでではOSGiバンドルを用いてECHONETプロトコル返還を行っていたが、この機能をPUCCフレームワークに実装し、PUCC対応デバイス単体でのプロトコル返還可能なソフトウェアの開発を行っている。現状、Raspberry Pi 上でECHONETの制御が可能なミドルウェアの選定と、動作確認が完了しており、PUCCフレームワークへの実装を進めている。

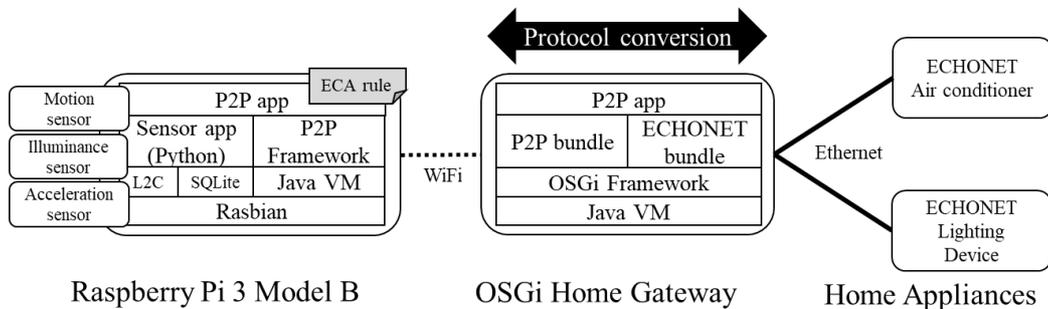


図1：これまでのプロトタイプシステム

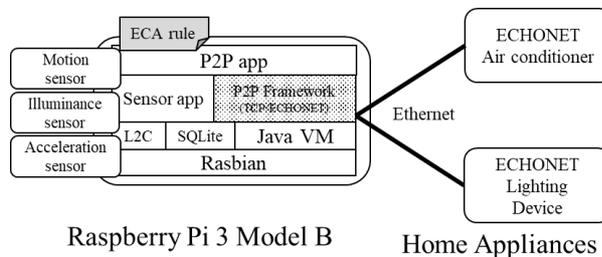


図2：開発中のプロトタイプシステム

## 1.2 PUCC セキュリティプロトコルの実装と評価

提案方式[2]に基づき PUCC プロトコル上で設計したセキュリティプロトコルを実装し、通信シーケンス実行時間への影響についての定量評価を行った。評価環境は3台の MacBook Pro (CPU:2.6GHz / MEM:8GB) にインストールした Java (JDK1.8) で実装された PUCC プロトコルスタック上に提案方式のプロトコルを実装し、各 PC は無線 LAN (802.11n) インフラストラクチャモードで接続した。

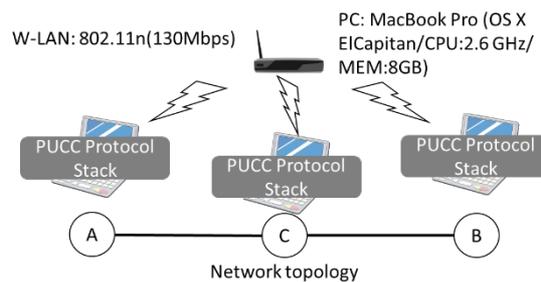


図 3：評価環境

またアルゴリズムや各種パラメータ設定については、等価安全性で 128bit 安全性を担保できるよう表 1 に示すとおりとした。

表 1：各種パラメータ

Hash Algorithm	HMAC-SHA-256
PSK length	128bit (21 ASCII characters)
Key Derivation	PBKDF2 / HMAC-SHA-256
Iteration counts	10000
Salt length	128bit
Encryption Algorithm	AES-128 / CBC mode

### 1.2.1 認証シーケンス実行時間

図 4 に示すように、認証を行うことで通信開始までの処理時間がシングルホップ認証において約 30ms 増となった。これは、PUCC プロトコルにおいて通信を開始する際には、Hello メソッドによる 1 回のリクエスト/レスポンスにより通信経路を確立するが、提案方式での認証を行うことで、2 回のリクエスト/レスポンスが実行されているためである。さらにマルチホップ (2 段階) 認証においては約 230ms の増となった、これは認証シーケンスに加え AC 間のセキュアセッションでの暗号・復号化処理時間 (計 4 回) が加算されるためである。2 ホップのネットワークにおいて、認証の有無により処理時間が倍となっているが、これはセッション構築時のみに影響するものである。セッションの維持期間を十分に長くすることで通信全体への影響を小さくすることが可能である。

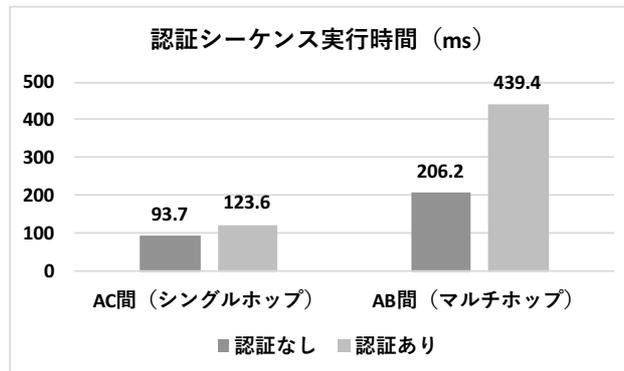


図 4：認証シーケンス実行時間

### 1.2.2 メッセージ送受信処理時間

次に、暗号化及びメッセージ認証 (MAC) の有無によるメッセージ送受信時間への影響について比較を行なった。メッセージサイズは 1Kbyte と固定して送信側の送信処理時間、受信側の受信処理時間の測定を行なった。図 5 に示すように暗号化及び MAC なしの場合、送受信処理ともに 1ms 程度となっているが、暗号化ありの場合は、送受信共に 20ms 程度の処理時間がかかっている。また、MAC の有無でも比較を行なったが、ほとんど影響は見られなかった。これにより、提案方式の暗号化処理は、メッセージの送受信時間に影響があるが、MAC は大きな影響がないことがわかった。

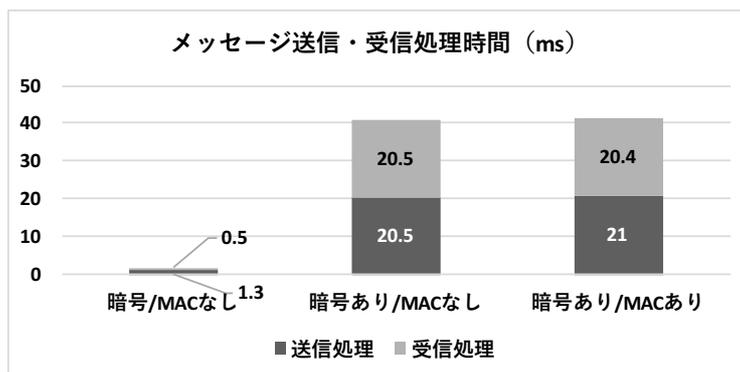


図 5：メッセージ送受信処理時間

### 1.2.3 メッセージサイズによる影響

暗号化及びメッセージ認証 (MAC) のメッセージサイズによるメッセージ送受信時間への影響について評価を行なった。図 6 に示すように、各メッセージサイズにおいて暗号・復号処理時間は共に大きな増加はなく 20ms 程度であり、100kbyte 程度まではメッセージサイズによる送受信時間への影響はそれほど大き

くないことがわかった。

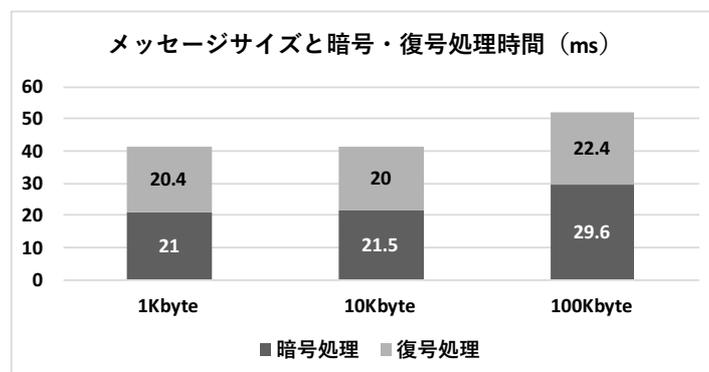


図6：メッセージサイズと暗号・復号処理時間

#### 1.2.4 デバイス性能による影響

提案方式のデバイス性能による影響を確認するため、OpenSSL コマンドの speed オプションにより評価で用いた MacBook Pro 及び Raspberry Pi 3 Model B (Raspbian 8.0/CPU:1.2GHz/MEM:1GB) の AES 128bit CBC モードでの暗号化処理性能の比較を行なった。図 7 に示すように、性能測定に用いた MacBook Pro よりも Raspberry Pi 3 では暗号化処理に 1.60~1.81 倍の時間かかっている。提案方式では通信時間に対して暗号化処理時間が支配的であることから、Raspberry Pi などの小型デバイスでは 2 ホップでの認証において約 400ms (230ms×1.7 倍) の処理時間増、暗号化通信において送受信それぞれ約 36ms (21ms×1.7 倍) の処理時間増となることが推測される。

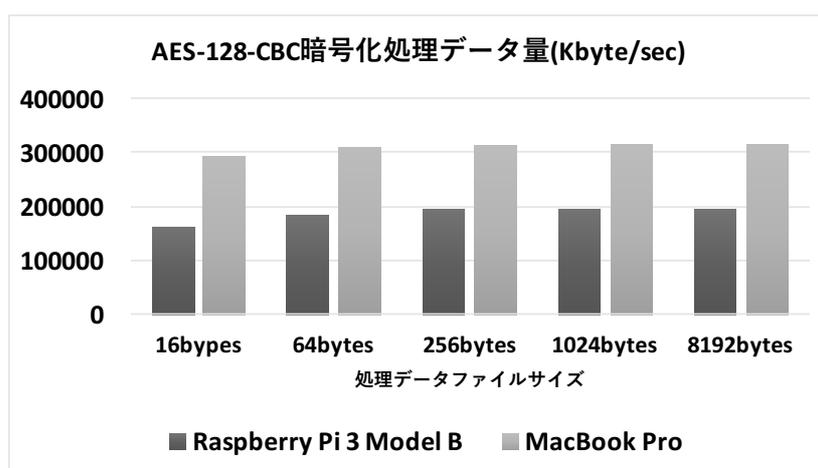


図7：各デバイスでの AES 暗号化処理速度

以上の測定結果により、提案方式による通信シーケンス実行時間への影響につ

いてまとめる。メッセージ認証については送受信時間に大きな影響はないことが分かった。またマルチホップ認証や暗号化については送受信時間への影響が比較的大きく、Raspberry Pi などの小型デバイスではその影響がさらに大きくなることがわかった。しかし、近年では、AES による暗号化・復号化処理の高速化のため AES-NI(Advanced Encryption Standard New Instructions) のようなハードウェアアクセラレーション技術も普及し始めており、大幅な性能増も見込める。将来的には AES による暗号化・復号化処理の影響は実用レベルに低減され、提案方式は家電機器やセンサデバイスなど小型デバイスにおいても十分実用的に動作すると考える。

### 1.3 まとめと今後の課題

以上のように、自律分散型デバイスの実装評価に向けて、ECHONET 機能の PUCC フレームワークへの実装と、PUCC セキュリティプロトコルの性能評価を行った。今後は引き続き、Raspberry Pi による自律分散型デバイス開発を進めていく。

## 2. PUCC フレームワーク・PUCC プロトコルの実装

以下の理由により、PUCC フレームワーク・PUCC プロトコルの新規実装を進めている。

- ・ プロトタイプシステムに用いている PUCC フレームワークは、2013 年に開発が終了しているものであり、メンテナンスが行われていない。
- ・ 現在は未使用のアルゴリズムが多数搭載されていることによって肥大化しており、省リソースのハードウェアでは稼働が困難となっている。
- ・ 研究目的としてライセンスの無償提供を受けているが、将来的に活用シーンを拡大することを鑑みると、制約を受けないライセンスが必要である。

### 2.1 PUCC Core Protocol

PUCC プロトコルメッセージのルーティングについては、シングルホップを実装し、マルチホップを実装中である。メッセージタイプはユニキャストを実装し、ブロードキャストを実装中である。マルチキャストのメッセージタイプは今後も利用シーンが想定されないため実装を見送る。

### 2.2 PUCC Basic Communication Protocol

Hello メソッド・Bye メソッドを実装した。Resource Exchange メソッドは、PUCC ネットワークトポロジーを最適に構築するために互いのリソースを交換しあうものであるが、現在主に想定しているホームネットワーク内での利用ではトポロジー構築に有効活用し辛いことと、昨今のインターネットを介する構成では各ノードのロ

ーカル IP アドレスなどの物理ネットワーク情報を交換し合っても利用困難なため、実装は見送る。

### 2.3 PUC Control Protocol

今後実装予定である。

### 2.4 PUC Device Discovery and Service Invocation Protocol

今後実装予定である。

#### 参考文献

- [1] T. Kato, N. Ishikawa, N. Yoshida: Distributed autonomous control of home appliances based on event driven architecture, 2017 IEEE 6th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017), pp.129-130 (2017)
- [2] 加藤剛志, 石川憲洋, 吉田尚史: 非構造化 P2P/オーバーレイネットワークにおけるセキュリティ方式の提案および PUC プロトコルを用いた実装と評価, 情報処理学会論文誌, Vol.59, No.2, pp.392-403 (2018)

## 2. ビジネスアーキテクチャの研究と実践

### 1. 目的

本プロジェクトの目的は、研究シーズの事業化、外部の先進企業との提携、M&A 等といったビジネスプロセスを円滑に進める上で、そこで不可欠な構成要素群について、研究と実践を平行して行いながらビジネスアーキテクチャを明確にしていくことである。ビジネスアーキテクチャとは、例えば、医療、Smart Home、Smart City その他の IoT(Internet of Things)領域におけるビジネスドメイン遂行に必要な構成要素の設計、設計手法の集合体である。研究シーズからの事業化の場合、大企業を除くと、日本企業では例えば IoT センサーの要素技術は持っていますが、De Facto となるビッグデータ層、解析層に繋がる見通しのよいシステムアーキテクチャを十分に用意することは難しい。逆に、シリコンバレー側の De Facto プラットフォーム群は、日本企業が豊富持つ現場の生のデータ、ビジネススキームに到達することはほとんどできていない。

本プロジェクトでは、グローバルなビジネス状況を鑑みて、リファレンスとなる可塑的環境を準備し、グローバルマーケットを睨んで、ビジネスドメイン毎の顧客層、ビジネスモデルの明確化を行い、顧客のニーズに従って必要であれば、事業要素（システム構成、ビジネスモデル、オペレーションモデル等）のピボットティングを果敢に勧めることができる基本的なフレームワーク群を整備し、ビジネス遂行と平行して、順次それらのビジネスアーキテクチャをオープンラボ形式により、研究し、開拓していく。

研究組織としては、コアメンバーとして、吉田尚史（グローバル・メディア・スタディーズ学部教授）を研究代表者とし、宮崎淳（OrangeTechLab CEO、かつ、GMS ラボラトリ研究員）を Co-Project Leader とする体制で研究活動を実施している。

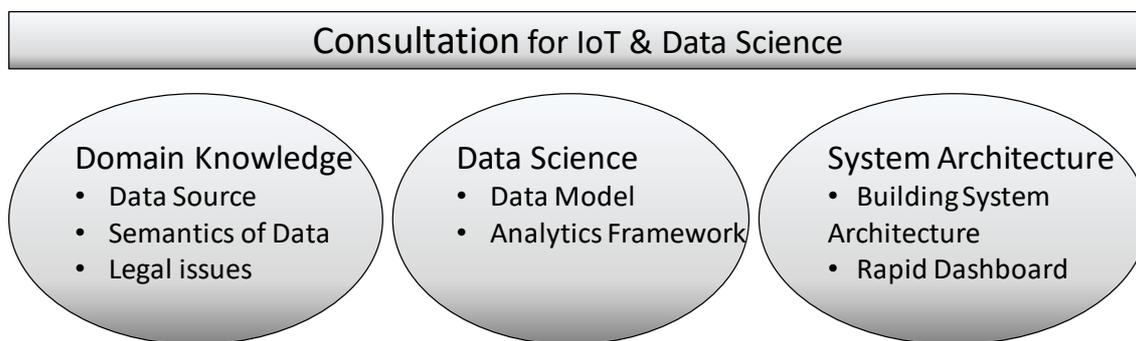


図1. ビジネスアーキテクチャ概念図

### 2. 基本概念

我々のビジネスアーキテクチャは、4つの分野で構成される[1]。ドメイン知識 (Domain Knowledge)、データサイエンス (Data Science)、システムアーキテクチャ (System Architecture)、および、コンサルテーション (Consultation) である。コンサルテーションが、他の3つの分野を統括する (図1)。これらが、ビジネスの進行に伴い役割が図2のように変化していく。例えば、ドメイン知識として車のドライバーの専門家と、データサイエンスの専門家、情報システムを実現するシステムアーキテクチャの専門家に加え、それら全体を把握するコンサルテーションが結集し、ドライバーおよび同乗者の顔認識と三次元的顔方向の算出を実現し、タクシーやトラックなどの車内カメラを対象とした自動認識による危機管理システムを実現した。

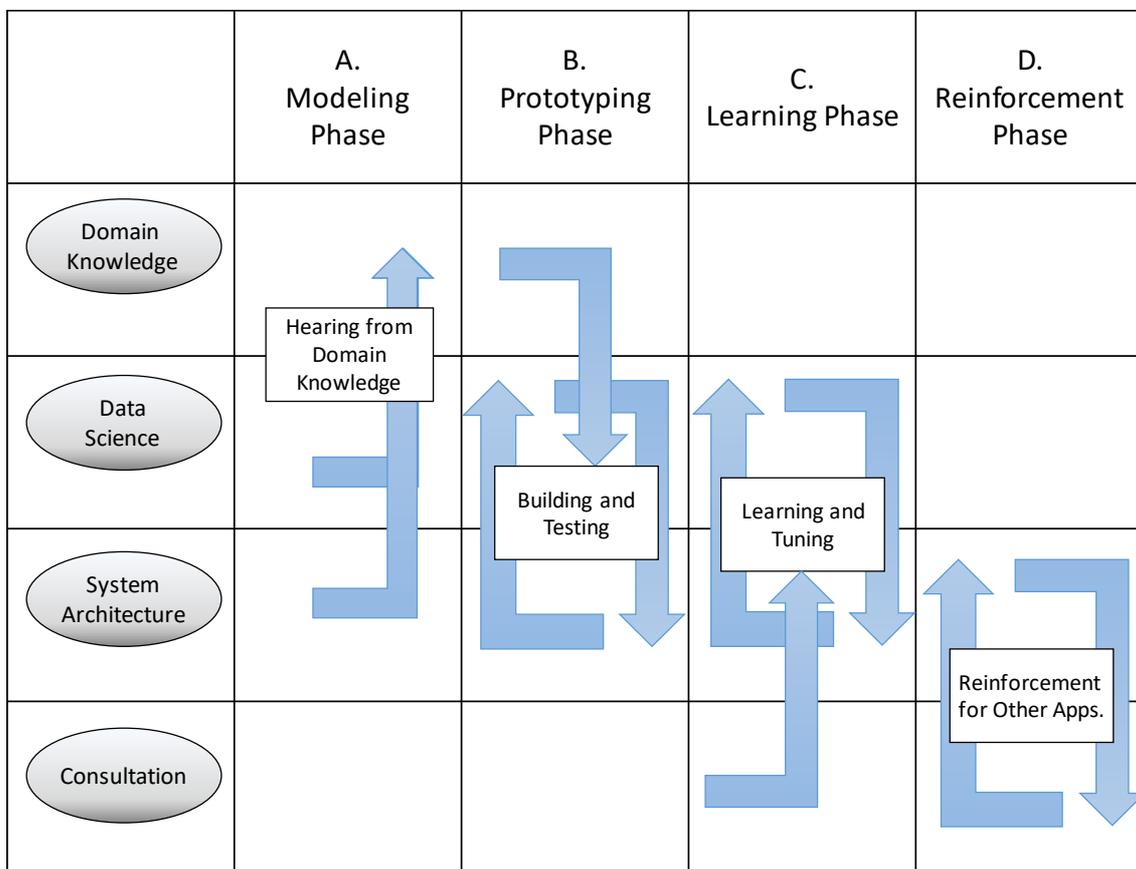


図2. ビジネスアーキテクチャのフェーズと役割

### 3. 活動報告

### 3. 1 定例会議

我々は、隔週の定例会議を継続して持っている。ビジネス活動とビジネスアーキテクチャの明確化を並行して行っている。株式会社オレンジテックラボの活動として行っている。それらの一部は、ブログ形式で公開している (<https://www.orange-tech-lab.com/blog-1>)。

### 4. 2 その他

RISC-V [5]のコンソーシアムなどグローバルなコンソールに参画し、活動の幅を広げている。ビジネスアーキテクチャの取り扱う範囲を、AIを中心とした、クラウド、エッジ、人口知能アルゴリズム、などのソフトウェアから、IoT システムハードウェア、ロボティクスへの展開、さらにはセンサー領域として光学システムの専門家に参画を実現し、ハードウェア領域にも広げている。

### 5. 成果

すでに、文献[1][2][3]に示す論文を発表している。さらに、ビジネス領域に必要な戦略特許マップを描き、戦略的に特許を出願している。すでに2件以上の特許を取得済である[6][7]。さらに、文献[4]に示すデータ分析に関する研究・教育も行っている。今後は、様々なビジネス領域に展開し、論文および特許の発表、および、具体的なビジネス活動を行っていく予定である。

### 参考文献

[1] Naofumi Yoshida, Jun Miyazaki: A Multi-Disciplinary Approach of Business Architecture and its Business Intelligence Applications for IoT Big Data, The 21st World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2017, July 8 – 11, 2017 - Orlando, Florida, USA, 2017.

[2] Jun Miyazaki, “Data Economy”, The 21st World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2017, July 8 – 11, 2017 - Orlando, Florida, USA, 2017. <http://www.iiis.org/keynotespeakers-2017.asp>

[3] 宮崎淳,吉田尚史, ビックデータ分析プロトタイプのためのデータ生成方法とその人事データへの応用, 第8回ソーシャルコンピューティングシンポジウム,2017年6月23日(金), 24日(土), 2017.

[4] データ分析結果の学会発表, <https://www.orange-tech-lab.com/single-post/2017/09/27/%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E5%88%86%E6%9E%90%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%81%AE%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E7%99%BA%E8%A1>

[%A8](#)

[5] RISK-V, <https://riscv.org/>

[6] 特許 6522173, 情報処理装置及び情報処理プログラム, 株式会社オレンジテックラボ・株式会社エンライブ, 登録日令和 1 年 5 月 10 日(2019.5.10).

[7] 特開 2022-020820, 情報処理装置、情報処理プログラム及び情報処理方法, 株式会社オレンジテックラボ, 吉田尚史, 公開日令和 4 年 2 月 1 日(2022.2.1).

# 社会とメディア研究プロジェクト

●メンバー 服部哲（代表、GMS学部）、川崎賢一（GMS学部）、白水繁彦（GMSラボ研究員）

●活動内容 以下の通り

## 駒澤大学GMSラボ公開研究会

第4期（2021年度）前期総合テーマ「移動・定住・アイデンティティ」ゼミ内容

駒澤大学GMSラボラトリー主催 担当講師 白水繁彦 なお（G）はゲスト 話題提供者（講師）

回	開催月	日時	場所	テーマ	講師	内容紹介
前期 1	4月	4月11日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	宗教的迫害を逃れて：アーミッシュが教えてくれるもの	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学GMSラボラトリー サーチャー	1. 第4期ゼミ前期の趣旨説明 2. 事例研究アーミッシュ：再洗礼派の諸宗派は創始地欧州で邪教として激しい弾圧・排斥を受ける。その宗派の一つアーミッシュは弾圧を逃れて18世紀中葉アメリカへ移動、ペンシルベニア州の未開拓地で自給自足の生活を始める。あくまで聖書に忠実に生活を律しようとするかれらは「近代文明」とも鋭く対立する。パンデミック下のいま、珍しいアーミッシュ紹介ビデオを見ながら、「社会の分断」「文明・文化・アイデンティティ」等々、様々な視点で考えてみたいと思います。
前期 2	4月	4月25日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	移動民受入側の苦悩：ハワイの主権回復運動	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学GMSラボラトリー サーチャー	この回は、次回(5月9日)の露払い的役割。数世紀にわたってポリネシア人が独自の文化を築いていたハワイに、18世紀末欧米人が来航。以後とくに米国系の宗教者や起業家たちがハワイの諸制度を大きく変えていく。そして1893年ついに米国系住民によるクーデターによりハワイ王国転覆。1898年には米国政府がハワイを併合、以来ハワイは米国領土となる。しかしこの米国併合は先住ハワイ人の意向とは異なる。100年後の今日、何が問題だったのか、なぜそんなことが起きてしまったのか。1993年の出来事を追ったドキュメンタリー映像「さまよえる楽園・その1 王朝転覆100年」を見ながら、征服する側の論理、その論理の背景を考えます。
前期 3	5月	5月9日 (日) 2pm-4pm	Zoom	変転するハワイ王国	G講師 目黒志帆美さん 石巻専修大学准教授	19世紀ハワイ王国史を、英米二大列強の介入とこれに対するハワイ国王の政策の関係から考えます。歴代ハワイ国王はいずれも王国の独立維持のための方策を講じますが、その方策は英米いずれかに接近するものでした。アメリカに対する宥和政策を講じた国王もいれば、アメリカの影響を抑えるためにイギリスに接近した国王も存在しました。振り子のようにハワイ王国が英米に接近した過程について見ていきます。
前期 4	5月	5月23日 (日) 2pm-4pm	Zoom	イギリスの近代都市ヨーク1：都市化、移民、貧困調査	G講師 武田尚子さん 早稲田大学人間科学学術院教授	19世紀、欧米の諸都市は国内外からの流入者で人口が急増し、貧困、衛生問題、不良住宅など様々な問題をかかえるようになりました。社会改良を最優先すべき地域をつきとめるため、社会学や社会調査など近代の社会科学が発展しました。貧困地域の居住者は流入してきたばかりの移民であることが多く、貧困調査は移民の生活実態調査という側面がありました。この回ではアメリカのシカゴ、イギリスのヨークで実施された社会調査、貧困地域の社会地図を紹介し、都市へ流入してきた移動者を科学的に把握しようとした先人たちの努力を理解しましょう。
前期 5	5月 特別開催	5月30日 (日) 2pm-4pm	Zoom	特別企画 Okagesamade : ハワイ日系女性の軌跡	作品紹介と話題提供 松元裕之監督	今回は特別企画です。 前作 Go for Broke: ハワイ日系二世の記憶 で話題となった松元監督に、新作のドキュメンタリー映画 Okagesamade : ハワイ日系女性の軌跡 について、その一部の紹介をしていただき、その後ディスカッションに参加していただきます。そもそも日系女性に焦点を当てたのはなぜなのか、映像でライフストーリーを撮ることの意味・意義、多くの日系女性の人生から見えてきたもの等々、興味深い話が聞けそうです。
前期 6	6月	6月6日 (日) 2pm-4pm	Zoom	イギリスの近代都市ヨーク2：アイルランド移民と貧困地域	G講師 武田尚子さん 早稲田大学人間科学学術院教授	イギリス中東部の都市ヨークは、現在は歴史的建造物の多い都市として観光客を集めイギリスのツーリズムの拠点都市の一つで、人気のストリートの一つであるウォルムゲイトには独立系のショップが立ち並び、ユニークな通りになっています。ウォルムゲイトは20世紀初頭はヨークのスラム地区の一つでアイルランド移民が集住していました。1899~1901年にB.S.ロウンリーが実施した貧困調査の対象地区でした。ロウンリー自身はキットカットを最初に作ったチョコレート工場の社長でした。チョコレート産業の発展と貧しいアイルランド移民が集住していた貧困地域の改善が同時期に進んだ近代都市ヨークの歴史を一緒にたどってみましょう。
前期 7	6月	6月27日 (日) 2pm-4pm	Zoom	在日外国人の現在：ブラジル人の事例 昨日・今日・明日（仮題）	映像紹介 白水 Gコメンテーター A. イシさん 武蔵大学教授	1980年代以降急激となった人的国際移動。折しもバブル期を迎えようとしていた日本は人手不足を補おうと外国人労働者、なかでも「日本人の血」を引く日系人の受け入れに奔走します。こうして、とくに90年代以降、日系ブラジル人の入国が急増します。「順調」に見えたブラジル人の滞日生活も、リーマンショック、東日本大震災という未曾有の災難に巻き込まれます。かれらの現状を撮ったビデオ番組をみながら、かれらの実態、とくにその心情を「在日ブラジル人一世」アンジェロ・イシさんとともに考えます。
前期 8	7月	7月4日 (日) 2pm-4pm	Zoom	朝鮮籍とは何か：在日コリアンと「国籍」とアイデンティティ	G講師 李 里花さん 中央大学総合政策学部准教授	在日外国人研究第2弾。今回は朝鮮半島から移動してきた人びとおよびその子孫（在日コリアン）の意識と行動について考えます。ゲスト講師は、いま多分野で話題の書『朝鮮籍とは何か』（明石書店、2021）の編著者である李里花さん。まず在日コリアンの「朝鮮籍」に焦点を当て、彼女らが直面してきた国籍や制度をめぐる問題を考えます。その上で三世や四世となった在日コリアンの帰属意識に注目し、そのリアリティに迫ります。
予備日						

駒澤大学GMSラボ公開研究会 2021年度前期 夏季特別講座 日系ブラジル人のライフ・ストラテジー

駒澤大学GMSラボラトリ主催 担当講師 白水繁彦

回	開催月	日時	場所	テーマ	講師	内容紹介
夏季特別 1	8月	8月22日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	日系ブラジル人の120年	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学 GMSラボ・リ サーチャー	「新天地に挑んだ日本人: 日本ブラジル120年」(NHK制作)を素材に、ブラジル移民の開始の背景探り、一世、二世、三世それぞれのライフ・ストラテジー、教育ストラテジーを検討する。日本人はどのようにして「ブラジル人」になったか。
夏季特別 2	8月	8月29日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	移民と文化資本	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学 GMSラボ・リ サーチャー	「50年目の乗船名簿前編」(NHK制作)を素材に、戦後移民のライフ・ストラテジーを検討する。この映像素材は各家族のライフ・ヒストリーともいえる内容となっているので、親たちの生き方、ライフ・ストラテジーが子の世代にどうかかわるかを見て取ることが出来る。ブルデューのいう文化資本や社会関係資本をキーワードに検討を試みる。戦後の日本とブラジルの関係、とくにブラジル人の日本への出稼ぎが、いくつかの家族の命運を分けることを確認する。
夏季特別 3	9月	9月5日 (日) 2pm-4pm	Zoom	ライフ・ストラテジーと階層移動1	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学 GMSラボ・リ サーチャー	「50年目の乗船名簿中編」(NHK制作)を素材に、前回に引き続き戦後ブラジル移民の家族のライフ・ヒストリーを検討する。前回では文化資本の考え方が難しいという声があったので、映像資料の例に即して説明する。
夏季特別 4	9月	9月12日 (日) 2pm-4pm	Zoom	ライフ・ストラテジーと階層移動2	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学 GMSラボ・リ サーチャー	「50年目の乗船名簿後編」(NHK制作)を素材に、前回に引き続き戦後ブラジル移民の家族のライフ・ヒストリーを検討する。第2世代で、教師や技術者、歯科医などの専門職に就いた家族もあるいっぽう、夢がかなえられなかった家族もある。そうした違いはどこから来るのか。階層移動の背景を検討する。

駒澤大学GMSラボ公開研究会

第4期(2021年度)後期 総合テーマ「イメージとリアリティ:日系社会の「勝ち負け抗争」が示唆すること」ゼミ内容

駒澤大学GMSラボラトリ主催 担当講師 白水繁彦 なお (G)はゲスト話題提供者(講師)

回	開催月	日時	場所	テーマ	講師	内容紹介
後期 1	10月	10月10日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	人間の環境認知の基礎:メディアが作り出す世界	話題提供者 白水繁彦 駒澤大学GMSラ ボ・リサーチャー	1. 第4期ゼミ後期の趣旨説明 2. メディア・リテラシーの基礎知識 Keywords: 擬似環境(イメージ)、現実環境(リアリティ)、状況定義、予言の自己成就・・・ 3. 情報環境の今昔:かつては権力による「情報統制」、では現代の情報統制はどうかを今学期考察する。
後期 2	10月	10月24日 (日) 2 pm- 4 pm	Zoom	ブラジル「勝ち負け抗争」の実態 1	話題提供者 白水繁彦	視聴素材 NHK制作ドキュメンタリー「遠い祖国」(前編)を見て、ブラジル「勝ち負け抗争」の実態に迫る。
後期 3	11月	11月7日 (日) 2pm-4pm	Zoom	ブラジル「勝ち負け抗争」の実態 2	話題提供者 白水繁彦	視聴素材 NHK制作ドキュメンタリー「遠い祖国」(後編)を見て、ブラジル「勝ち負け抗争」の実態に迫る。日米開戦中の大本営発表に頼っていた在日日本人の間で終戦後勃発した「勝ち負け抗争」。予言の自己成就の実例を分析する。
後期 4	11月	11月21日 (日) 2pm-4pm	Zoom	米国西海岸の収容所における「愛国者」たち(仮)	G講師 大鹿康廣さん 移民史研究者	ツーリレイク日系人収容所における日本文化のリバイバルについて検討する。日米開戦によって理不尽に強制収容された米西海岸の日系人12万人。そのなかでも反米的意向を示した者たちが集められたツーリレイク。彼らの「愛国心」をコミュニケーション論の立場で分析する。
後期 5	12月	12月5日 (日) 2pm-4pm	Zoom	ハワイにおける「勝ち負け抗争」	話題提供者 白水繁彦	戦前、戦中、戦後のハワイの日系社会の情報環境と戦勝派の活動。ハワイにもいた「勝ち組」(勝った党)。かれらの心情の背景を検討する。また、彼らをメディアを使って攻撃した日本語新聞の目的と実態を明らかにする。
後期 6	12月	12月19日 (日) 2pm-4pm	Zoom	「大本営発表」の実態(仮)	話題提供者 白水繁彦	海外日系人が大いに頼りにした短波ラジオの「大本営発表」。その実態を探る。視聴素材 NHKドキュメンタリー「幻の大戦果」。敵国に対して情報戦を展開していた日本陸海軍は虚偽情報を出し続けた。その結果どのような悲劇が出来たか。膨大な数の戦死者を生んだ情報戦の実態に迫る。
後期 7	2022年	1月9日 (日) 2pm-4pm	Zoom	「イメージとリアリティ:「命のヴィザ」、その(史実)と(通説)の乖離」 <sup>1</sup>	G講師 菅野賢治さん 東京理科大学教授	菅野著『「命のヴィザ」言説の虚構 リトアニアのユダヤ難民に何があったのか?』(共和国、2021年8月刊)。この膨大な自著の解説および杉原千畝の「義拳」を描いた映画やドラマを分析。脚色される部分を分析する。
後期 8	1月	1月23日 (日) 2pm-4pm	Zoom	「イメージとリアリティ:「命のヴィザ」、その(史実)と(通説)の乖離」 <sup>2</sup>	菅野賢治さん第2回目	世間で喧伝される「命のビザ」の物語と実態との乖離。これがなぜ生じたのか。日本人、米国やイスラエルのユダヤ人の思惑。それと深く関連する戦後の国際情勢等さまざまな変数を考慮しながら検討する。前回の発表も含めてのQ&A、および、出版社 共和国の編集者の、この書にかける思いを聴く。
補講	2月	2月6日 (日) 2pm-4pm	Zoom	権力的統制から非権力的統制へーメディア環境の歴史的連続性と非連続性	話題提供者 白水繁彦	1. 菅野氏が影響を受けたフォーコーの歴史観、社会観。エピステーメーとは。2. 今日のメディアと人びととの関係:1950年代に今日のすがたを予見したレイ・ブラッドベリ『華氏451度』を改めて検討する。情報統制の究極のすがたともいえる焚書。しかし今日の日本や米国では焚書は行われていない。焚書など必要としない社会とは。娯楽化したメディア。フィルターバブルの中の個人について考察する。